飯田龍太記念俳句大会（大人の部）入賞者

廣瀬直人／選

特選（大人の部）	氏名・姓号
1 陽を讃へ陽に讃へられ柿すだれ	和田　知子
2 在りし日の頃そのままに暮の秋	有泉　七種
3 えにしかな竜胆のいろ濃きことも	小野　一惠

秀作（大人の部）	氏名・姓号
1 あるときは和服召されて星月夜	高野　宏
2 露けしや甲斐のみ空の親子星	平井　孝征
3 満天の星降る山のつづれさせ	梅木　外以
4 石門はそのまま高し鳥渡る	田中　昌子
5 奉納の稲束匂ふ遠嶺晴	内田　光子
6 露けしや一番鶏が胸そらし	梶川　博司
7 耳打ちの羅漢に榎の実散りこぼる	斎藤みちえ
8 卓に置く橡の実ひとつ詩魂とも	有泉　公子
9 音もなく葭原分けて水澄めり	中嶋　英子
10 大荒れの後の川筋鵙の贄	小平　千里

入選（大人の部）	氏名・姓号
1 みずがきの峯の切れ味夏の雲	坂本　宏
2 石柱も石のベンチも盛夏かな	萩原　天香
3 合歓咲いて散ってまた来しレストラン	剣持　洋子
4 秋の雲仔馬無心に駈けまわる	平山　忠子
5 乳しぼる子の瞳牛の眼涼新た	平塚美代子
6 供花を剪る鋏の小鈴涼新た	成島玖美子
7 新秋の雲紡ぎ合ふ甲斐信濃	水上　孤城
8 山々の凡てに名あり胡桃落つ	佐久間孝男
9 水口に水適ひたる稲の花	渡辺　勝子
10 かなかなや一と山越えて母の里	千須和清光
11 野分してうす墨いろの師の山河	永光　朗子
12 朝方の冷えはいずこに芋を掘る	西山　一利
13 海へ出てこゑ鮮やかな秋の鳶	島津ふじ穂
14 火の色にまむし草の実修験道	金子　栄子
15 尉鶲甲斐道祖神まんまるし	高畑　浩平
16 はるかなる師の声追ひて露の径	矢崎　幸枝
17 茅葺を守りて卒寿小鳥来る	上田みよし
18 かりそめに鳴くひぐらしの彼方かな	加藤　勝

入選（大人の部）	氏名・姓号
19 山襞を叢雲くだる実むらさき	加藤　鼓堂
20 白萩の拳に触るる別れかな	野中　秋光
21 素盞雄神社十月の雲の峰	中村　契子
22 また別の鳥語加はる白露かな	河村　祐子
23 灯を消して涼しき闇となりにけり	深沢　君江
24 地蔵盆まびきの竹を引き擢って	内藤　雅子
25 秋高し助走に拍手促して	諏訪　恭市
26 棒道にはるかなるもの吾亦紅	小松　靜子
27 鳥渡る合掌組みの村の空	若林　蕗生
28 山霧の富士あのあたりきぞめぐさ	小笠原直江
29 拝観は矢印に添ひ暮の秋	飯島美津子
30 柿すだれ日風に山の匂ひあり	原口　季代
31 野の花の露に睡りて露に醒め	柳田　洋美
32 水位あと乾く閘門雁渡る	北村　秀子
33 まくなぎの声なき声を振り払ふ	吹野　保
34 面付けて神と仕へて神楽舞ふ	内藤　政次
35 蛇笏忌や誰からとなく歩をゆるめ	名取　文子
36 鳥列を正して飛んで芒原	斉藤　幸三

入選（大人の部）	氏名・姓号
37 落雷に擬宝珠瓦の真つ二つ	穴山かほる
38 薄墨の山の重なる十三夜	小泉　操
39 噎せ返るほどの稲の香吊し雲	齊籐美恵子
40 鳥渡る夕日しばらく稜線に	秋山ふみよ
41 雨降ってゐる朝顔の残り花	矢崎　節子
42 風に乗り風の円かに赤蜻蛉	生野　愛子
43 暮れなずむ風まかせなり猫じゃらし	秋山　三恵
44 鵙高く鳴くなり風の渡るなり	清水伊都子
45 石畳つづく街道萩に雨	藤巻　清子
46 下駄履いて谷中寺町汀女の忌	土井よし子
47 駈けぬける少女に匂ふ今年藁	小林　久子
48 木曽谷の闇底しれぬ月夜かな	網野貴世子
49 山上に方位の十字秋暑し	井上　啓子
50 初紅葉昏るる山より人のこゑ	西山　昭夫